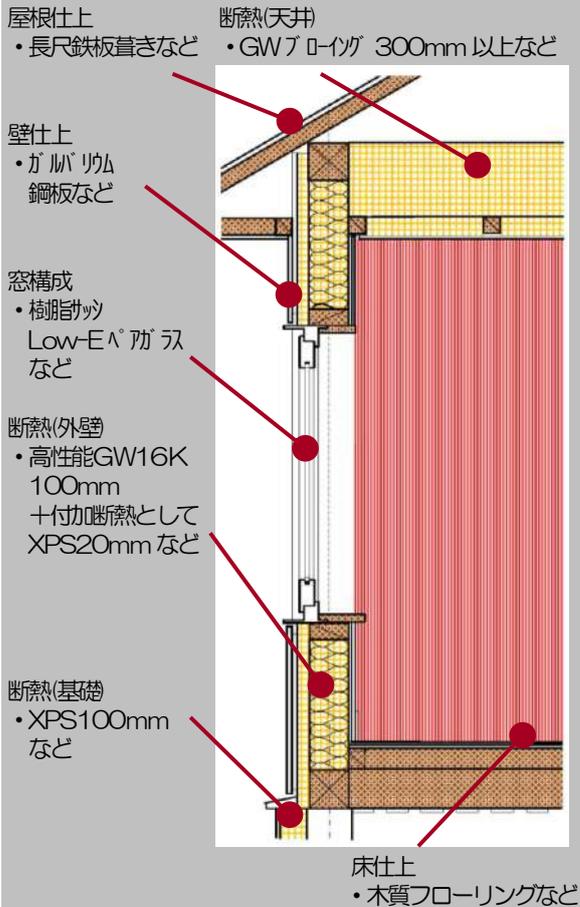


新しい北方型住宅



- そのほかの主な特徴
- ・相当隙間面積 (C値) 20cm<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>
  - ・含水率 20%以下の乾乾材、集成材の使用
  - ・熱損失係数 (Q値) 1.6W/m<sup>2</sup>・K
  - ・敷地内の雪処理の配慮



新しい北方型住宅

2003年に、今まで北方型住宅として産学官が一体となって進めてきた豊かな住まい・住まいづくりについて、新たな展開を始めました。

断熱・気密に関する性能を確かなものにするために、専門知識を持った資格者による設計・施工や、次世代に継承される良質な家造りを支える仕組みづくりを行いました。



オール電化住宅の普及



BISO (設計)、BISO-E (施工)  
住宅の断熱と気密に関する専門知識と確かな技術を持った BISO (断熱気密技術者) による設計・施工を行います



金属製外壁材の普及

耐食・耐久性はもちろんのこと、デザイン性にも優れた外装材として、鋼板にアルミと亜鉛でメッキを行ったガルバリウム鋼板の外装材が普及しました。

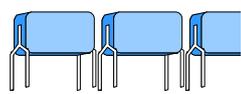
新築住宅平均床面積
2000(H12)戸建北海道
147.2 m <sup>2</sup>

平均世帯人数
2000(H12)北海道
2.4人/世帯

灯油消費量

年間灯油消費量(135 m<sup>2</sup>の住宅全室を 20 度に温めた場合・札幌市)

おおよそ 1,200(L)、ホームタンク 500(L) 約 2.4 個分



熱損失係数 1.6W/m<sup>2</sup>・K (おおよそ 1.4kcal/m<sup>2</sup>h°C)

隙間面積

135 m<sup>2</sup>の住宅の隙間を集めると

270cm<sup>2</sup>以下  
(16.5×16.5cm)



隙間相当面積 2cm<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>以下